

## 微笑庵便り 2019年6月号

松久系の教室では今でも多くのところで「仏像彫刻のすすめ」を使っているのではないのでしょうか。現在微笑庵でもそれを使っています。

最初は地紋彫り、小刀一本で板に模様を彫っていきます。私はすでに人形で彫刻刀は使っていたので、これは難なくクリア。次は仏足、握り手、開き手、地蔵仏頭と進んでいきました。当時のことはもうあまり覚えていませんが、それほど時間をかけずにそれぞれ終了していったように思います。多分この時点で4月の入会から4か月くらい、11月に教室の展覧会があり、それまで3か月程ありましたので、2尺の地蔵仏頭を彫ることになりました。教室の先輩がよい材料を譲って下さり、応援して下さった事は今でも良い思い出です。20年以上たった今でもこのあめ色になった仏頭は教室の正面に鎮座しています。



さて、そこまでは極めて順当な滑り出しだったのですが、そのあと思いもかけない展開となりました。多分私が完全にのめりこんでいるのはおそらく誰の目にも明らかだったのでしょうか。なんと、次の課題として先生の口から飛び出したのが、“5尺の仏頭作ったら嵌入れ教える”というものでした。“嵌入れ”って何だかわかりますか。鎌倉時代以降の仏像に玉眼がはめ込まれているものがありますよね。あれです。なんと仏像彫刻歴7か月の初心者に5尺（ほぼ等身大）の仏頭を彫ったら、その玉眼入れるのを教える、というものすごい無茶ぶり。きっと先生のほうもちょっと面白がっていたのではないのでしょうか？でも、そうなる私の負けん気に火がついて、売られた喧嘩は受けて立つではないですが、完全にその気になってしまいました。最初から彩色するという事だったので、材料はヒノキである必要はなく、比較的安価で柔らかく彫りやすい姫子松で、という事だったのですが、これは手に入りませんでした。何軒か材木店も当たってみましたのですが、姫子松は鋳物の木型などに使われているという事でしたが、東京の一般の材木店は取り扱ってなかったようです。結局手に入ったのは朴木（ホウノキ）でした。朴はヤニもなく、私が手にしたのは比較的彫りやすく（これは材に寄りますが）、独特の色も彩色する予定なので全く問題ありませんでした。値段はヒノキと比べたら、半額位でしょうか。何はともあれ材料を調達し、いざ出陣ということになりました。

